

10-2 地域と一体となった河川管理

斐伊川の高水敷は、堤外を縦断的に流れる水路によって分断され、人が近づきにくくほとんど利用されていないが、宍道湖や中海では、広大な水面を利用した舟運、ボードセイリング、レガッタ等の水面利用や、釣りや湖岸の散策、バードウォッチングなどの多様な利用がなされており、地域の人々に広く親しまれている。

特に中海の米子水鳥公園や宍道湖西岸では野鳥の観察施設があり、多くの人々に利用されているほか、環境学習の場として水辺プラザ等の整備を実施している。

また、斐伊川では毎年沿川地域住民による河川一斉清掃や、流域の小学生を主体として斐伊川放水路事業により切り開かれた丘陵地の法面等の緑化のために、在来植生による植樹活動が行なわれるなど、河川と流域の住民とのつながりや流域連携の促進及び支援、河川愛護思想の定着と啓発、住民参加による河川管理を推進している。